



歯科衛生士の卵も実感！ 院外で伝えることの大切さ

Goodbye.
Perio Project

今年の6月、神奈川県川崎市で行なわれた地域の人向けのグッペリ活動に、いつもと違う顔ぶれがありました。新東京歯科衛生士学校の学生数十名が参加してくれたのです。一般の方に歯周病予防の大切さを伝えるという役目に、緊張した面持ちの彼女たち……。ところが！活動が終了する頃には、その表情はキラキラと輝いていました。歯科衛生士の卵として、どんな気づきを得たのでしょうか？来年の春に卒業を控えた3名の学生に、お話を聞きました。



理由が伝われば、
ちゃんと実践してくれる！

土井 麻由佳さん



グッペリで一般の方と接するのは、実習のときに患者さんを相手にするのは違うなと感じました。歯科医院に来る人たちは、お口の中をキレイにしていく方がほとんど。フロスを知っている人もいます。一方でブースを訪れた方たちは何も知らなくて。ちゃんと伝えることができるかなと、最初は心配でした。

でも、実際に関わってみると反応がよくて安心しました。たとえば「フロスは歯ぐきの中1~2mmまで入れてください」と模型で見本を見せると、「こんなに!？」と驚きます。でも、理由を説明するとちゃんと実践してくれるんです。自分の伝えたことを理解してやってくれたのが、うれしかったですね。

歯医者さんに来ている人と来ていない人には大きな差がある。そのことを知ると同時に、こうして差を埋めていくことも学べてよかったです。

「難しそう」と思われないう、
伝え方を工夫！

寺本 有希さん



フロス指導をしているとき、こんな声をよく聞きました。「前に歯医者さんで教わったけど、難しくて。結局は歯間ブラシを使ってるんだよね」

確かにそうかもと思いました。自分でも、フロスは時間がかかって大変だと感じる時があります。相手にとっても同じだよなあと、改めて気づかされました。ぜひ、この場でわかりやすい説明を身につけたいと感じましたね。

最初はうまく説明できませんでしたが、だんだん周りの歯科衛生士さんたちをマネしてポイントがつかめてきました。特に気をつけようと思ったのは、人によってやりやすい方法は違うという点。相手の器用さに合わせて、伝え方を変えていく必要があるとわかったんです。私は患者さんに寄り添うことのできる歯科衛生士を目指しているので、とてもいい体験ができました。

まずは関心が
持てそうなことを切り口に！

高橋 聖子さん



私の役割は、一般の方に位相差顕微鏡で口腔内細菌を見もらうことでした。顕微鏡を覗き込んだとたん、みなさんビックリ。「えー、動いてる!」って。そして私の説明を、興味深そうに聞いてくれたんです。フロスの受け入れもスムーズでした。「こうしてください」と一方的に伝えるのではなく、まずは関心が持てそうなことを切り口にすればいいんだとわかりました。

活動をしていて思い出したのは、以前歯科医院で助手のバイトをしていたときのこと。そこでは毎日のように「歯が痛いから何とかして」「歯がグラグラする」と困っている患者さんが訪れていました。悪くなる前に何とかできればいいのに。そう思うと胸が痛かったですね。だからこそ、一般の人たちに情報を伝えていくことの意味を強く感じます。臨床でも予防に力を入れ、活動で体験したことを活かして頑張ります!

彼女たちの気づきは、患者さんに関わるうえで大切なことを改めて思い出させてくれます。

先を走る先輩として、
あなたもグッペリ活動で
新たなヒントを見つけませんか？

メンバー登録は <http://perio.tuftclub.jp> で♪